

會名

第

號

速記擔任者

○川崎委色長 宜之少少
 个了人
 ○若田委色長 北支ニ於ケル
 日本為ノ家少輸入ノ問題
 了了了人、殊ニ甚事不致

會名

第

號

速記擔任者

權が出来たに於て、所謂
 東自治区域下云々の如
 北支の権、年々強しん
 中らに於ては、此地域
 之根據ニシテ、北支ニ
 於テ

向路から上りての影響が
 現に及ぶものと言ふ人は、支那
 政府に對しては、地産の産
 品の周稅收入に著しく
 減退を云ふ事、甚しき

入せしむる案の輸入物價が
 著しく漲上りて、是の外
 害ありし事、是の外
 務大臣の其現地の御境
 二十の文に表はす、此

二 依
 上
 砂糖
 密輸
 是

實ハ
 政府
 我
 密輸
 是

於今之視國與親船之
 有欲之修視之元平分
 出未十十ト云々ト
 聲明之平然ト云々
 此向類ハ倫敦但青等

二於今之視國與親船之
 從子之平居ハ高ハハ
 平行ト云々ト云々ト
 爲ハ念ハクニ固ク平何シ
 年ハ平密ハ輸ハ平著者

轉向シヨクアトト云々事
 実アリク、又南京
 政府ノ聲望ニ依ルハ成
 寧輸入ニハ日本ノ軍支
 持アリテ、遂テ渤海等ニ

能ク是れ我々ノ大問題ト
 ナル事有ク、又我國ニ於テ
 元青島貿易ハ是れ為
 ニ非常ナ打撃ヲ受ケテ
 存シ得ル、上海ニ於テ

尚書之相遺十一ト思フ、
 一トテ外務大臣及陸軍
 大臣、海軍大臣ニテ出陣
 ヲ發セタリ、支那政府ノ
 表意スルコト悉ク實ニ實

日本ノ正者十ニ業者有之、
 密輸ノノ者ニ級々従来ノ
 高權ヲ失ヒ、アト云フ
 コトテ、アト云フ、
 物ノ民ニ取ツテ、
 實ニ實ニ

43

考へて下元出爲の上思とす。亦
 而るの困難ニ對し、果して支
 持し難きとせしむる實りある力
 上り力。又外務大臣ハ此問題ノ取
 締ニ上り云フ方法ヲ今日テ執ラシテ居

42

形の上ト知ハ其ノ又
 得テある政者殊ニ大勢
 大程上レニ一カ明白ニ成ル
 可食ノ事ヲ知ル事ノ了
 中ノ何等カ根據ノ上ノ下

了ら方、得素出何在路
 及り以平 此同類少以扱
 七二十七力 少同レタレ上思
 7、特ニ 秘密存ニ於テ知
 加申上レル程、勿知テ

第 號

書記擔任者

本國院圖書印

一、上思七了ら方、扱
 言、自由ヲ希望改テ
 之タカシ、特ニ此類ヲ
 借用ニシテ

第 號

書記擔任者

本國院圖書印

ラ 匿^{（隠）}ニテ 其ノ トキニ 譯^{（訳）}カ

ア^{（ア）}リ^{（リ）}ト^{（ト）}ス^{（ス）}ニ^{（ニ）}

○小山委員

モウ一言

ソレヲハ簡單

ニ 至^{（至）}カ 艦^{（艦）}ヲ 建造^{（建造）}セ^{（セ）}ル 場合^{（場合）}

一 噸^{（噸）} 平均^{（平均）} 凡^{（凡）}ソ^{（ソ）}ト^{（ト）}ノ 位^{（位）}ノ

會名 後總（總會）

予 筆 總 令

也

青土

書記擔任者

林 部

要^{（要）}キ^{（キ）}ト^{（ト）}ス^{（ス）}ニ^{（ニ）} 削^{（削）}リ^{（リ）}、 何^{（何）}ノ

ト^{（ト）}ス^{（ス）}ル^{（ル）}ト^{（ト）}キ^{（キ）}、 マ^{（マ）}カ^{（カ）}ソ^{（ソ）}ノ^{（ノ）} 所^{（所）}ハ

事^{（事）}務^{（務）}カ^{（カ）} 行^{（行）}キ^{（キ）} 其^{（其）}ノ^{（ノ）} 方^{（方）}セ^{（セ）}ヌ^{（ヌ）}ノ

事^{（事）}、 此^{（此）}事^{（事）}ヲ^{（ヲ）} 申^{（申）}上^{（上）}リ^{（リ）}ラ^{（ラ）}レ^{（レ）}ト^{（ト）}ス^{（ス）}ニ^{（ニ）} 矣^{（矣）}

何^{（何）} 秘^{（秘）}密^{（密）}會^{（會）} ヲ^{（ヲ）} ア^{（ア）}リ^{（リ）}ト^{（ト）}ス^{（ス）}カ

速記擔任者

位ノ御見込
コヤリヲスルカ
其概數サケテ宜シウコト
イヌ

○川崎委魚長 其數字

ハ後カ同フトシテ

速記擔任者

經費が^{要ルカ}進歩

其他之依テ非常ニ

建艦費が高クナリ

其ルヤリニ承知スルノデ

アリクニカ、現在以ソトノ

東京海軍歴史資料館

○永野國務大臣 一寸申上げ
 又、現在、戦艦八噸二千
 五百圓乃至三千圓ト多ク
 二十万トありコト
 ○堤委員 只今海軍大臣

○小山委員 答弁シヨウト
 シテ此ルカヤアリマセ又カ
 ○川崎委員長 マカ書類
 マ探シテ此ルノテスカラ、後デ
 宜イカヤアリマセ又カ

必要ナモノハ吾々國民ハ
 決心ヲシテ此ハ併ナカラ
 免ニ角大体ドノ位ノモノカ
 要事、國民ハトノ範圍系
 堪ハラレルカト云フ、凡ソノ

ハ華盛頓條約、倫敦條約
 カ續ク時ト大差ナシ、ソレカ
 ラ若干増ス、其若干カ
 イノヤナイカト云フ、トテ
 チットモソナフトハ、
 悔クナイ、

が續く時ト大差ナイト云ハ
 才前計算ニ見レハ宜イ
 弁ヤナイカト言ハレルカモ
 知レナイガゴチラハ素人ナ
 ル、ヨアルカラ續クモノト

見送テ、村多クイ、ソコ
 若干殖エルト殖ルト古ノ程
 成ノ疾ハ御話ニナラナクテ
 平宜シウコトイマス、ソレデ
 華盛頓條約、倫敦條約

意ハ能ク令テ其リマス
 マダ何令ニモ来年友ノ
 予算ナハヤツテ其リマス
 又ノテ、額ニ付テハトシモ
 申上ラレナイノハ洞ニ残

スレバ、凡ソ年々トノ位要
 ルカト去テ、ホツト多ク翰廊
 タ伺テ見タイト去テ趣
 旨ヲテリマス
 ○永野國務大臣 御趣

一見渡シテ付ケテ發表ヲ
 シ、協賛ヲホトルト去リ心
 積リヨアリノマスカ、其莫ハ
 如何シアリノマセウカ

○永野國務大臣 甚早

念テヨザイマスガ、其通り
 テヨザイマスカラドウソ...

○堤委員 サツスルト今度ノ
 十二年夜予算ヲ編成スル
 時ハ、少クトス 四五ノ位

○提委員

他ノ監内也

アルヤツキアリノマカラノ海

軍大臣ニ對シテ是ヲ止メス

○川崎委員長

芦田君

○芦田委員

私ノ甘言

ノ情勢ニ變化ナシ

ハサツスル積リデシキ

ス、併シ今後ノ情勢

トシテカノカノ

マカラ

存シラス、唯海軍大臣ノ
 御説明ニナリコシテ建
 艦方針ノ中心莫ハ艦種
 性能ノ選擇ニ依リ、平
 等比率ニ達シナイ海軍

ハ極大ノ滿蒙ヲアリス、
 只今海軍大臣ノ御説明
 ニ依リテ、吾國海軍
 將來ノ建艦ノ御方針
 ハ極大ノ明瞭ニナリト

私共、素人ハ此ノ方針ニ對シテ
 多少疑念ヲ持ツトモカカリ
 マスカヤルニ、其ノ長ニ對テノ
 少説ハ仰和タイト思フ
 一テアリマス、私共ノ誤解

ヲ次テモ、西部太平洋ニ
 於ケル海面ニ於テ、十分ノ防
 御力ヲ持ツ海軍ヲ作ル
 一ノ、斯クシテ御説明
 一テアリマス、

及^心性純一^艦艦ヲ造ル、斯ウ
 云フコトカ^方方針ヲ^んんト患
 ヒマス、然ルニ^歐歐羅巴海軍
 一例ニ依ツテ^明明カテ^んん如ク
 獨逸カ^一一^万万噸ノ^トト^戦戦

スル所ニ依リマス、帝易
 海軍ハ從來ノ海軍制限
 條約ニ依ツテ定メ^レレ^テテ居ッ
 夕艦種若ハ性能ニ拘泥
 スルコトナク、我^レ我^レノ艦種

之ヲ對抗スルニ爲シ、佛蘭西
 ハ、タンケルシ型ノ船ヲ造リ
 テ、独逸ノ「ホケット」戦艦
 艦ニ對シテトテ、老人夕、之ニ
 對抗スルニ爲シ、伊大和ハ更ニ

速記擔任者

關艦ヲ造リ、華盛頓條
 約及ニ備數條約ニ定メ、此
 種ニ對シテ、マラナイ「ボトツ
 ト」戦艦艦ヲ造リ、夕

速記擔任者

五午嘔ノ主力艦ヲ造ル計
 畫ヲ有持
 報邊^道ニテ居ルマシ、恐ラク
 是ハ道聽途說ヲアツル
 思ヒマスケレトモ、少クモ
 海軍

三万五午嘔ノ主力艦ヲ造リ
 始メタト云フコトガ、今日ノ事
 際テアルナリト云フ人マス、
 テ四月三十日ノ倫敦ノ新聞
 ニハ、英海軍ハ近ク五万

等王明瞭之形知之居ん
 分アリスル、斯りまフ艦種
 性能ヲ異ニシ夕軍艦ニ依
 ツテ、比率ノ平等ナラザル
 帝島海軍が西太平洋ヲ

士官ノ一部分ニハ、將來帝
 國海軍ニハ五万噸前後ノ
 主力艦ヲ造ルコトヲ知西島
 アルト云フ喜見ヲ有リテ
 居ラシタト云フコトヲハ、本島人

二十ルト、或ハ三年五年ノ
 間ハ相手國ガ之ニ追隨ス
 ルコトガ出来ナイノデアリス
 カラ、製艦競争ハ避ケ
 得ルカモ知シマセヌ、伊之長

守リ得ルト云々トハ、吾々
 理福トミテハ承服致スル
 唯、サリキウコトガ果ステ
 建艦競争ヲ防グ目的
 ヲ達スルカヨリカト云々ト

此即細スル目的ハ遠ニナイヤカノ
 如クニモ考ヘラレシルノデアリマス、
 其ト云フテノ步説ハテ然ル
 三タイト思ヒマス

○永野五務大臣

日本が

イ目テ考ヘテ見シバ、艦造
 性能ヲ異ニスル軍艦ヲ造
 ツタカラト言ウテ、是カ有ラニ
 制ニ艦競争ヲ弛メタリ、
 或ハ海軍一費用ヲ著セク

會名

第

號

速記擔任者

大い變の大キナ船ヲ造ルト云フ
 コトガ方々ニ傳ハルテ居ルヤ
 リテソサイヤスルカ、ト云フ云フ程
 能ノ船ヲ造ルカト云フコト
 ハ、尙ホ大イニ研考ヲ要ス

未詳

會名

第

號

速記擔任者

マス、今ヲ去ルコト十五年程
 前テアリマスルカ、甚當時
 ニモ、今ハ亡クナラシマシタ
 金田秀太郎ト云フ人カ、
 當時大佐デアリマシタカ、十

未詳

然^レコアラリト思^ハカス

シカク、我^レノ船ヲ造

ルトマフコトハ成程大イニ制

戦^スマセウト思^ハカス、ソ

カラ同^シニ三^千五^百噸ノ船ヲ

万噸ノ船ノ計畫ヲ^二在

リ^ニス、海軍士官ノ中^ニ、

五^千五^百噸、或ハ六^千噸、

七^千噸ト云^フヤリナ^リト^テ言^フ

者^ガ↑出^テ来^ルコトハ^ハカ

減少ノ問題 ● 其他ニ於
 キヤミテ、急ニ考ル處ヲ由ラ
 ス餘地ハ相當ニアルトモ
 ス

○ 其日要員 モウ一考ラ

造リマスルニテモ、故ニ整
 テ行ク即チ法洋作戦ヲ
 ヤル艦トシカク比較的根
 據地ニ近イ艦トハ、又若
 干其洵ニ於テ、或ハ燃料

五月十日 豫界惣令
日名 日ソ 第 38

元三六
書記擔任者

川崎素負長

海部

ヲ致シテ人ガ、秘密會ニ

列シテソレハ、貴言通告者ハ

現在ノ所ハ人アルヲアテ

斯ク多ク貴ノ貴言者ヲ

會名

第

號

書記擔任者

日等ヲ致シテ人ガ、華盛頓條

約ノ際ニ出立事ヲ之夕太平洋

ヲ於ケル為初ノ防備制

限ニ由スル條約ハ、千九百三

十七年

①

タイトコトヲ豫メテ御願ヲ申
 上ゲテ置キマス、ソレカラ
 此秘密會ニハ外務大臣
 ト陸海軍大臣が是非
 御出席ヲ願フコト

満足セシケルコトハ余程
 時間ヲ要シマスと思ヒマ
 ス、利、弊言ヲ為サル
 方ニ於テ、成テケル簡單ニ
 要領ヲ御質問ヲ願ヒ

彦、辨、常、大、臣、が、此、處、に
 席 = 出、席、に、ラ、セ、ル、に、キ
 予、定、テ、ア、ツ、タ、ノ、テ、久、所、が
 極、密、院、ノ、藏、子、ノ、が、履、シ
 マ、シ、テ、マ、ダ、コ、ク、ラ、ニ、見、エ、マ

大、藏、大、臣、元、出、席、に、セ、ル、ル
 〆、ヤ、ウ、ニ、ト、ナ、ク、希、望、テ、
 ア、ツ、タ、ノ、テ、ア、リ、マ、ス、所、テ、
 大、体、本、日、也、時、ニ、極、密、院、
 ヲ、開、キ、マ、シ、テ、モ、陸、軍、大

フコトデアリマス、ソレデ
 總理大臣ト大藏大臣、
 海軍大臣の意見ニ
 ナリマス、先づ海
 軍ニ關心の方ヲ先ニ

也又、先程カラ電話ヤ
 カテ連絡ヲ取リ居ン
 命アリマス、外務大臣
 臣ハ四時半ニ終ラカラ、
 ソレヲ清マシテ来ルト云

4レトモ、尤様ニ濟彩
 可致レテ、敬言ヲ教ヒタリ
 1レシカリマス、提君……
 〇提委員、先ニ何カ御
 発表ガアル、サヤ、タイテスカ

速記擔任者

預疑ヲ教ヒマシテ、ソレカ
 3 長中ニ外務、陸軍
 兩大臣ガ御見エニナルト
 好ジマスカ、預問、
 順序等モツギイマスカ

速記擔任者

君並ニ畔田君ノ御誓同
 ガアリシタカラ、ソレニ對シテ
 答答ヲ致シテ、作戰
 用兵ハ年々張僥勝カ改ト
 云フ事則ノ支配ヲ大ニ

〇川崎安貞長 宜シクモサ
 一ツス、ソレ即ハ海軍ノ
 方カク御若者ノアルニキ
 毛ノ御若者ヲ致ヒタイ
 〇水野勲方長 退股堤

者多々有、辨スルテヤリ
 了スルト、是ハヒドイ軍
 備ノ競争ニナリタス、底
 止スル所ヲ知ラキイ工合ニ
 ナルニテアリマス、ソレヲ

受メテ居ルノテツサリマス
 カラ、軍ニ休戦回号ノ
 方カラ申シマス、トウシ
 三毛是ハ多ク有、辨スルト
 了ラズトニナルテアリマスガ

兵器ヲ大ニ減シ、若ク
 ハ全廢ス、防禦ノ方ノ
 兵力ハ之ヲ整備スル、
 所謂不脅威、不侵略、
 此狀況ニ行カウ予ハ才力、

一般ノ軍縮令ヲ發シ於キ
 一、予、帝皇ノ命令ニ依
 一、立場ニ立ツテ、サウシテ
 均等兵力トシ、サウシテ
 海軍ノ擴張ニ攻撃的ノ

速記擔任者

状態 = 入り 了 エトハ 詢 =
 済五様 = 残念 少
 了 了 了

速記擔任者

形 方 考 入 又
 シ 毛 詢 = 正 々 費 々
 主張 了 やり 了 シ 夕 午 了 毛
 是 が 通 了 了 了 了 了 了 了
 了 了 了 了 了 了 了 了 了

速記擔任者

19

國家ノ安固、日本ノ發展、
 斯少云フコトヲ受持ツ以
 上ニハ、ヤハリ本心ヲ言ハハ
 均等ノ兵力ヲ備ヘタイト
 云フコトガ、論ノナイ所テ

18

現狀ノ儘明奇ヨリ無條約ニ
 入リマス對策ト致シマシテ
 ハ、先ニ申シマシタ單ナリ
 兵術用兵ノ見地ヨリ申シ
 マスレバ、ヤハリ五ククト

ス、且ク若シ斯ノ如キ者
 ニ出テマスレバ、忽チニシ
 テ軍備ノ競争トシテコト
 ヲ誘發スルハ言フ迄モナイ
 所デフサリマス、ソコテ

コサリマス、併ナカク此現
 狀ニ於テ他ノ最大海軍
 國ト均等ノ兵力ヲ求ムル
 ト云フコトハ、是ハ言フベク
 シテ行ヘナイコトデフサリマ

略的ニハ若干消極的ノ態
 度ニ出ナクテハナルマイ、
 即チ五分々々ト申シマスレ
 バ、一ノ或國ガ日本ヘ攻メ
 テ来ト、ソレト同時ニ日本

此現狀ノ儘、無條約狀態
 ニ入りマシテ、一 体帝國國
 防ノ海軍ノ方針ハトシカ、
 斯少申シタスルト、是ハ
 ドウシテモ止リテ得ズ、戰

カラモ 向クハ 相当行ケル、
 是ガ五分以ク テアリマスルガ、
 斯ノ如キハ 実情ニ對シテ
 トウシテモ 不可能ト 存セラ
 レルノテ アリマスニテ、 戦略的

速記擔任者

ニハ トウシテモ 稍々 消極ト
 申シマスルカ、 消極的態度
 ニ 出サケレバ ナラナイ、 廿少
 スルト トウシテモ 程度ニ 消極
 的態度ニ ナルカ、 斯少 申シ

速記擔任者

所ノ最大ナル海軍力ト
 同等ノ力ヲ有シタイ、
 實際ノ力ヲ有シテ居リタイ、
 且ト是ト同時ニ日本ノ情
 勢ニ鑑ミマシテ、
 適當ナル

マスルト、日本帝國ノ安
 固、我が海軍ノ使命、斯
 ク云ク點ヨリ考ハマシテ、
 太平洋ノ西半部ニ於テ
 ハトウシテ又我ヲ攻撃スル

露戰爭ニ於キマニテ、日
 本軍ハ向フノ来ルノヲ待シ
 テ、即チ向フハ攻撃的ノ
 戰略ヲ用ヒ、日本ハ大佐
 ニ於テ守勢的ノ戰略ヲ大

防備及ニ根據地ヲ持シコト
 が必要テガナリケレテ、是ガ
 絶對的ニ必要ト吾々ハ確信
 シテ居リマス、消極的ノ戰
 略ト申シマスト、恰度日

捷々々ノテアリケルガ、此ハ
 リ此現状ニ接シマシテハ、
 吾々ノ戦略的ニハ西太平洋
 之ヲ戰場トシ、此域内ニ於
 テハ十分ニ最大海軍ニ

觀スルト思ハタノテアリマス
 ガ、率々戰場へ到達スルハ
 戰術的ニハ大ナル決心ヲ以
 テ、積極的ノ行動ガ出来ル
 斯ク云フノテ日露戰爭ハ

會名

第 號

速記擔任者

イト、吾々ハ斯ク確信シ
テ居リマス、儲テソレテハ

頁 13

3

會名

第 號

速記擔任者

対抗シ、是ト均レキニ兵力
ヲ有スル兵力ヲ要スル、若シ
此方面ニ於テモ唯此カチ
バカリ居リタシテハ、是ハ利
底日本ノ國家ヲ守リ得ナ

頁 12

是が國際條約がアリマシテ
 軍備ヲ質量モ一定ニ限
 ラル、例ヘバ何ハ何万噸
 何ハ何万噸、或ハ何トキ
 艦ハ是々ノ大キサ、斯ウ

五月十一日

豫算總會

會名豫算總會

第 39

號

速記擔任者

小

備夫ソレ等ハ同等ノ戰

ノ實力ヲ有スル海軍ト由

マスルト、必ズモ同量デアルト

キフ意味テハアリマセ又、若シ

的ニ於テ向フト同等、
 或ハ同等ニ近イモ、
 斯ウキラコトヲ要件ト致スノ
 テアリマスガ、来年ハ無條
 約状態ニナリマスルト、自今ノ

4

考ヘラレマシテ、制限ヲ受ケ
 スルト、非常ニ窮屈ヲコサイ
 マシテ、甚ダ国防上不利ナ
 所ガコトサイマス、ソレヲ斯ク去
 フ場合ニハトウシテモ、討數

3

持ッコトが出来マス、是か吾
 / 狙ヒ所ヲゴザイマス、ソレヲ
 之ニ依リテ成ベク、經濟的ニ
 我が國防ノ任ヲ盡シタイト
 斯ク感じシテ居ル次ヲデアリマス

持チマス海軍ノ質或ハ艦艇
 ソレニ伴フ所ノ性能、斯ク云
 フコトニ自由ナ選擇ヲ為ス
 コトが出来マシテ、日本ノ
 國情ニ應ジスルヤウナ兵カヲ

8
 金がトシタケト云フコトハ今更
 計算が出来テ居リマセヌカ
 差當リ吾々ノヤツテ居リマス
 肚ハ此処ニアルノテゴザイマス
 即チ現在ノ華盛頓條約及ビ

而シテソレデハ右ノ
 方針ヲ実行スルニ當リマシテ
 ドレダケノ金が是カラ要ル
 カト云フ重大問題ニナラフ
 卷ルノチアリマスガ、殘念ナ

行ノ
 居又場合ニ要スル金額ト大
 差ナイ金額ヲ以テ日本ノ國
 防ヲ為シ、甘ウシク不脅威
 不侵略ノ實ヲ擧ゲタイ、斯
 様ニ苦心ニテ居ル次第ナリ

速記擔任者

倫敦條約ヲ是カラストトシ
 ケテ行フ其場合ニ要スル
 所ノ金ヨリハ無條約ニシテ
 ト若干ハ増スヲアテウガ
 成ベク條約ガ是カラ續イテ

速記擔任者

12

マスト、主力艦ハ元來十六
 年が命トキラコトニナツテ居
 リマス、ソレが華盛頓條約
 ヲ約束シテ二十年、次イテ
 倫敦條約ニ依リマシテ二十六年

速記擔任者

11

ゴサイマス、今假ニ未ニカ
 ラ無條約ノ状態ニ入ルマ
 ハナク、華盛頓條約、倫敦
 條約が其存續ニ夕ト斯
 ウ考ヘテ見マスト、サウ致シ

速記擔任者

二付キマシテモ、ソレハ
 代換、又ハ補充ヲ要シマス
 ルノチ、是カヲ條約ガアリマ
 シタトシテモ、建艦量ハ今更
 ヲリ自然隨テ考リマス、

二之ヲ延ス、般々ニ
 ノ期限ガホソクハ、考
 サウモテ各通トモ之ヲ代
 更ル、代換ヲ要スル時期
 ナクテ居リマス、又補助

五万三千噸ヲ年々造ツテ行
 ク、英米ハ八万四千噸ヲ年
 々造ツテ行ク、米米ハ七万
 噸、斯ク云クヤウナ創會ニ

速記擔任者

尙ホ之ヲ具體的ニ申シマシ
 バ、兩方ノ條約カアリキレ
 場合、今後十年ノ間ニ日英
 米ハ平均一億年ニトレカ
 造ルカ、條約カアリキ場合ニ

速記擔任者

和十年、以平均の年二
 万二千噸を造つて居るに
 英國ハ三万三千噸を造つ
 て居るに、ソレから進歩利
 加ハ四万八千噸を造つて居る

トツチのタチアケル、
 ソレから最近ハ英米ノ三
 國ハトウ云つては、船
 現在造つて居るカボト申
 して居るト、昭和六年カラ

造ツテカクトニウツヤラナ
 此況ニヤルノテ、アウラニ又
 米國ハトウチニカトニウツト
 目下、例ノヒニソクノ
 大改造ノ計画中ニアル事

居リ、ハ、ソシテ、多ク弱カ
 前記ノ代換ヲヤシ
 手考リ、スル、ト、英、國
 今、ラ、テ、ノ、平均、建造、量、ノ
 二、倍、ノ、年、ノ、内、ニ、年、ノ

居りて、補助艦二
 等ありて、極大少ナカ
 ズ、ソレヲ主力艦、補助艦
 兩方綜合ニテ考ヘテ、人々
 以下、安ルニ彼ノ昔時ノ亞

是ハ今ヲ天艦ヲ造リテ、
 ナカツタ、例ハ彼ノ滿洲
 事變、強ク上海事
 件ノ起リタリテ、昔時ノ亞
 米利ハ主力艦ハ持ツテ

) = 相當 從政 立つて、
 有るに、
 大 = 條約 量ノ、
 天 建造 之、
 一云、
 勉 強 致 之、

米 利 的 ノ 十 = 對 之、
 ハ 九 ノ 力 ヲ 持 ツ、
 ア リ、
 非 常 = 苛 重、
 ハ ソ、
 好 ヲ 呼 び、

26

多約ク極強クニ場合ノ
 代換量ハ、以最大能力
 ヲ造ル居ル状態ヨリ長
 シ、是人持強クモ、有
 標方アリ、其ノ如ク現

25

例ノ「ヒ」ニ「業」ノ大段
 造計箇中「ア」リ「ニ」最
 近³⁰ノ最大能力ヲ適用スル
 居ル有標方アリ、其ノ
 華盛頓、倫敦、西カノ

28

フテ、ハ、獨、ラ、シ、ト、東、ノ、シ、ト
 ラ、ス、英、米、モ、亦、本、島、ノ、
 困、難、ヲ、感、ズ、ル、事、大、
 ニ、サ、ク、マ、ス、即、今、多、ク、
 カ、リ、マ、シ、キ、モ、日、英、米、

27

條、約、ノ、條、存、量、ヲ、維、持、シ、テ、
 如、キ、マ、ス、ル、方、也、既、ニ、本、
 島、ノ、建、船、量、ノ、増、加、ト、ナ、
 リ、マ、ス、今、更、ニ、兩、方、増、
 カ、シ、テ、建、船、競、争、ヲ、切、

今と云つて困難ヲ持て
 居る次第なりと云ふは
 状況ニ



速記擔任者

各國造船ノ技術。法
 流ニナリシニ、更ニシテ
 軍備ノ競争ト云フノ下
 ニナリシニ、^相板金ナ支
 出ヲシテナケレハ中々出費ナ

速記擔任者

ヒタイノヲアル、併シノレハ
 出来ナイ話ナル、又列
 國ノ軍備競争ヲ甚起
 ス、是ハ日本トシテ餘リ
 我ヨリ之ヲ誘發スルコト

五月十一日

豫算總會

會名豫算總會

40

千四百十號

速記擔任者

西

此米流ニ於キツミテ、高
 先申シマシタ通り本音
 言ハハ——實際ノコトヲ
 言ハハ私共ハ用兵作戰
 ノ上カラバリキリヲ言

又是か實際可能ナル
 ト吾々ハ確信ニテ居リマス
 一レテ若シ英米カ豫想以
 上ノ大建艦ヲ行ヒマス
 場合ニ於キマスモ、吾々ハ

ハ好マシク次第テアリマス
 出来得シハ艦種性能ノ
 適當ナル選擇ニ依リマ
 ス。國防ノ安固ヲ期シ、
 軍備ノ整備ヲ圖ル行矣

壞ハサシラセテ、攻勢的艦隊
 ヲ向テカ推ヘマス場合
 ニ、是ハ仕方ナク、トウ
 之ヲ之ニ應ジテ帝國ノ
 國防ヲ全クセヨルニ爲スル

必スモ之ニ追從スル意思ヲ
 持ツテ居リマス、
 併シ物ハ程度モノナルト
 存シマス、
 不侵略ノ原則ガヒトク

狀能心ニ行カナイコトヲ希
 望シ、又日本カラ進ニテ
 其、狀能心ニ道^{ヤウナ}ナクコトハヤラ
 ナイ積リアリマス加、
 萬々一其、狀能心ニナリマス

之、前海軍大臣ハ粥ヲ啜ラテ
 モト云フコトヲ言ハシメタ
 カ、ソレヲケル決心ヲ以テ
 之ニ當ルコトガ必要
 アリマス、其、様ナ

國か今回、倫敦會議ヲ
 脱退スル時、上下一致ノ決
 心ヲアツタト自命ハ確信
 シテ居ル次第ヲコトサレマス
 之ヲ要シマスルノニ、無條

之ハ實ニ是レ已ムヲ得ナイ
 次第ト思ヒマス、此向ヲ
 加非常ナカク脅威ヲ與ヘル
 ヤウナ場合ニ決シテヘコト
 レナイト云フコトカ、我が意中

條約がアツタ場合ト成ベク
 大ナル差ヲ生シナイヤウ
 ニシテ、日本ノ國防ヲ建テ
 テ行キタイト、斯ウ云フ
 積リテコサイマス

約狀態ニ入リマスト云フト、
 若干ハ條約存續ノ場合
 ニ比ベクモテ増加ヲスルノ
 ハ免シナイコトヲサイマス、
 併シ吾々ト致シコトニハ、

實力ハ亞米利加ノ十討
 之ヲ九ヲ持ツテ居ツタ、是
 カラスムソシカ激怒ハシ
 于居ツタケレトモ、何等手
 出シヲスルコトカ出来ナカ

速記擔任者

○堤委員 只今海軍
 大臣カラ大要ノ御説明
 ヲ伺ヒタシタカ、尙未少シ
 之ニ付テ御尋ヲ致シタイ、
 上海事件ノ時ニ日本ノ

速記擔任者

條約ニ依リテ取極メニナリ
 其最高限度ノ軍艦ヲ
 造ラナイテ、控ヘ目ニモテ居
 マルカ、最近其條約
 ノ最大限度マテ之ヲ補

ツク最大ノ原因ヲアルト
 云フ意味ノ御説明ヲ承
 リマシタ、如何ニモソレハ
 其通りト思ヒマス、併
 ニ大体亞米利加カ倫敦

夕コトハ滿洲事變後大
 陸ニ對シテ進出スルコト云フ
 コトヲアリマス、日本ノ海
 軍ハ言フ點モナク消極的
 ニ國ヲ護ルト云フノデハナ

充スルト云フ考テ、七具ハ劍ニ
 ヤツテ居ルト云フコトニ同
 シテ居リツスルカ、トウモ私
 ハ其ノ眞意カ分クナイ、勿
 論最近日本ノ態度ノ變ツ

併シ日米加支那大陸ニ
 進出スント多クトト
 亞米利加トハ何等私
 ハ關係がナクヤウニ
 思ハレル、亞米利加ハ

イ、積極的ニ此膨脹民族
 一膨脹力ヲ保護スル
 点ニナクヤナラヌ、是ハ
 毛ウ合リキワタコトナ
 ル、

22

那金土 = 對して一億五
 千万弗。主トして是
 毛上海デアム、ソシカラ
 貿易ハ、昨年ノ輸出ガ
 僅 = 一億三千万六百万

21

支那ノ大陸 = 對シ
 テ大シク利害關係
 ヲ持ツテ居ナイ、且最近
 ノ統計 = 依リズント、
 亞米利加ノ投資ハ支

24

ハ、ア、レ、ダ、ケ、ノ、排、日、ノ、氣
 風、加、盛、ン、テ、カ、リ、ヨ、ク、多
 ケ、レ、ト、モ、一、昨、年、ト、昨
 年、ト、比、バ、コ、ス、ト、一、割
 无、殖、エ、テ、居、ン、五、米

23

元、シ、カ、ン、一、昨、年、ノ、糶、出
 ト、昨、年、ノ、糶、出、ト、五、米
 利、加、テ、比、較、シ、マ、ス、ル、ト
 三、割、五、分、モ、減、リ、居、ン、
 日、本、ノ、支、那、ニ、對、シ、テ

會名

第 號

速記擔任者

26

海軍高司令ハ亞米利加
 卜率直ニ、日下ノ此膨
 脹力ノ現狀ヲ説イテ、
 日下ハ大陸ニコレク
 / 理由ニ依リテ進出

衆議院速記部

會名

第 號

速記擔任者

25

利加が何が故ニ日下ノ
 此大陸ニ對シテノ進出
 ニ、俄ニ關心ヲ持テ
 素んカ、ドウモ私ハ其
 意味が分ラナイ、ソコテ

衆議院速記部

會名

第

號

速記擔任者

28

ハ双方ノ不為 勿ヤナ
 イカトザツクバラシニ
 御話合ヒニナツテ見テ
 シタヤウナエトガアリ
 マズンカトウカ、之ヲ

速記擔任者

會名

第

號

速記擔任者

27

シナケレバナラナイハデ
 アんが、
 粟米利加ハ何モ
 ソレニモ及バヌヤナ
 カ、オ互ニ此海軍競争
 ヲ刺激スントナラコト

速記擔任者

ズんが、私個人ト致シマ
 シテハ米國ニハ比較的
 永クモ居リマエシ、ソ
 シカラ「ゼネバ」ソシカ
 ラ今回ノ倫敦會議

先ヅ「カ」ニ伺フ見テ
 「イ」デ「ア」リ「ソ」ム
 ○永野國務大臣 御質
 問ノ點ハ大分外務省
 ノ所管ニテ「ア」リマ

會名

第

號

速記擔任者

32

居ん方ト多クトモ承
知シテ居リマス。備款
會議ニ於キマシテハ
兩方ノ全權加私的
會談ヲ何回モヤリ

速記擔任者

會名

第

號

速記擔任者

31

ニモ出テ居リマス。テ
幾ラカ亞米利加人ノ氣
質モ知シテ居リマス。
又亞米利加人が日女ニ
関シテ何ヲ考メテ

速記擔任者

33

會名

第

號

速記擔任者

マンタ、其時ニハ
 ギャクバラニオ
 話ヲシタ、デ
 イ、聊カ何
 アリ、ムンガ、日
 本ニ

東京府立第一高等女子学校

34

會名

第

號

速記擔任者

對シ、コシテ、私
 回目ニ、臣米利加ニ
 リ、マンタ時、丁度
 大戦後、デゴザリ
 當時ハ所謂、ヤ
 プル

東京府立第一高等女子学校

戰論ヲ蓋ニヤツテ
 居ワタヤウ十風ニ聞
 エん程激越十演説
 フヤツテ居リニ云、其
 本ハトウシテモ私ハ

問題ト云ノガ盛ニ
 アツタ時ニシテザイマ
 ス、昔時ノ米國ノ議
 會ニ於キコシテハ其
 議員ハ殆ド日本閣

38

トモウ一ツノ理由ハ、
 米國ハ高ク金ヲ出シ
 マシテ「バナム」運河ヲ
 掘ツタ譯デアリヌ、
 所加米國ハ御承知

37

日本ノ對支政策、就
 中二十一角條ノ要求、
 是等ニ對シテ非常ニ
 惡感情ヲ持ツル者シ
 タヤウニ思ヒヌ、ソレ

39

會名

第 一 號

速記擔任者

通リ 商業ノ中心
 東海岸ニ持テ
 臨



頁

五百十号 豫算總會
 台名豫算總會 第一號

天四十一 群
 速記擔任者 上

東海岸ニ持テ先ノテ
 ガイマス、
 ルフイヤ、
 ナモノヲ持テ居ルノテ
 アノ方面ニ大
 細方或ハ
 大

速記擔任者

大雨降り渡らざりし運賃
 が政羅正^(諸國)較バテハ高ハ
 ソニテハヤマ^ハ逢河が出来
 マシタ結果トウナリマシタ
 カト申シマスト、政羅正カラ

マス、ソレテ東洋に聞云
 高業ノ競争ヲヤリマス時
 二、軍ニ運賃がヤカラ申シ
 マシテモ、東洋岸ノ物ヲ支
 那ノ持ツテ果テ賣ル時ハ

同の賃率ナラバ 詰リ
 運賃が同シヤラニナツタ
 ト云フカラチ 米況ニナリ
 マシタ、其時米商人は是
 ヲ香港—— 假令ハチマ

速記擔任者

印度洋ヲ通りマシテノ各
 港へ來ん 距離ト、紐育
 カマハチマ運河ヲ通りマ
 シテ香港へ來ん 距離が
 同シクナリマシテ、若シ

速記擔任者

港以北、即上海、北支、
 此方面之向、ハ非常之米
 國が有利、アト言フ、
 非常之喜、ト和ハ觀
 戸多クマス、其後米國

速記擔任者

運河が出来、ハ、香港、以
 南、ハ向、ノ、方、カ、近、ク、
 運賃が安、ノ、カ、併、シ、香、港、
 此、ハ、ソ、ウ、ハ、此、方、ノ、運
 賃が安、ノ、カ、殊、ニ、香

速記擔任者

接
 助
 4 7 4 3 4 4 し、ハイカ
 ト之ヲ此意の見が強
 イマス、特ニ海軍士官ノ
 間ニ於テ非常ニ強イ、
 カラ 4 9 百 3 十 年 即 4

速記擔任者

△

海軍大臣ノテニヒ
 アシガ日本ニ来マシテ、
 イヲ支那ノ行中マシテ、
 其人ノ演説ナレカニ依リマ
 スト、
 米張米園ハ支那

支那ヲ既ニ日本ト對シ
 之ニ時期ガアムノアム、斯
 う云フヤラナ演說ガアノ
 時期、アムヤウ、アムヤウ
 トウキウ、エノ、アムヤウ、アムヤウ、
 アムヤウ、アムヤウ、アムヤウ、

速記擔任者

前ノ倫敦條約ノ後、英
 國ノアノ宣言ガ、議會ニ於
 テマシテ、報告シマシク、演說
 ガ、一九九三年ノ五月、後、
 アリマシク、將來、吾々ハ

速記擔任者

會名

第 號

速記擔任者

うきノ意見ヲ持ツテ居ん
 者が相吉ニアツヤツクサイ
 マス、~~舞~~舞舞申シマ
 ス通り、現在ノ貿易ハ減
 ツテ居ん力ヲ知シマセヌカ、

衆議院速記

頁 13

會名

第 號

速記擔任者

支那ノ是非本國が接
 するナクシハナラズ、何ヲモ
 日本が隣リノ支那ヲ非
 善ニ見做ルナク居んと去ラテ
 り大成シテ持ツテ居ん、斯

頁 12

會名

第 號

速記擔任者

ト云フ宣氣が相告ニアト云
 フ只今ノ御說明アリマシ
 リ、併シ支那ヲ^接既々行
 カナクシハナラナイト云フハ
 宣教師が支那ノ官員ヲ

速記擔任者

會名

第 號

速記擔任者

支那ヲ以テ^接非常ノ經濟
 的発展ノ対象トスルヲトハ
 疑ヒナクト思ヒマス
 口提委員、米國ハ支那ヲ
 既^接々行カナクシバハカヲ

速記擔任者

會名

第

速記擔任者

頁 17

真大十の議程ヲ忍ビテ
 式元ノし程ノ必要ガアハカ
 トウカ、 其必要ハアハ
 マイトキヲ下ハ、是ハ主ト
 之ヲ總理大臣ニ私ハ一度

衆議院速記録

會名

第

號

速記擔任者

頁 16

助ケントキヲヤリテ、サリ
 去ノ簡單ニ行クモノヤナ
 イ、支那ヲ助ケテ經濟上
 ノ發展ヲスントキヲノムハ
 日本ト戰ハナクシバナラズ

衆議院速記録

會名

第

號

速記擔任者

のト云フ所ノ最高政策
ヲヤツテ見タリトウカ、此
ト云フアリマス

○廣田國務大臣 今ノト云ハ

此等以外務大臣カウ信念

衆議院速記部

會名

第

號

速記擔任者

伺ハテ置キタイノテア
スガ、其大知真知カ
觀テ、虚心坦懐ニ、亞米利
加ト話合ツテ見テ、成ハ
リ建艦競争ヲ避ケ

衆議院速記部

頁 21

マスノデスガ、支那ニ対ス
 ル方針が、トウデアハカ、日
 本ト戦ヲシテ、^近支那
 ノ^肩肩ヲ持ツヤリナ^程程
 デアハカトウカ、

衆議院速記

頁 20

ヲ述べサシタ方が、^適適
 アラリト思ヒマス
 〇有田國務大臣 私ハ申込カ
 3等リマシタノデ、^仰議
 1様子が十分ナリ兼ネ

衆議院速記

23

園ハツ 持ツテ 屏ツタフトハ出
 衆知テアルト思ヒマス。又支
 那ガ若ク共和國デ、
 米利加トモテ出重ルカケ之ヲ慶
 應、育成ニテヤラシケレバナ

22

是ハ具體的ニ色々ノ物有ニ
 應過ニナケレバ、ドウ新定スル
 ト云フ記ニ所カナキト思ヒマス。
 垂米利加ガ從來支那ノ内戸
 開カト云フストニ付テ、非意ナ

會名

第

號

速記擔任者

下ハ西平利地ガ相當テ犧
 牲ソ拂ツテ支那ノ援助ニ
 出掛ケルト云フ風ナフトガ
 ナリトハ斷言出来ナリト私
 ハ思フコトナリト云フ。

速記擔任者

會名

第

號

速記擔任者

下ニ云フ風ナ感情ヲ持ツテ
 居ルコト又持ツテ居ルコト
 トモ事實ヲ多クト思フノ
 テイリス。隨テ日本ノ支
 那ニ對スル態度如何ニ依テ

速記擔任者

24

25

會名

第

號

速記擔任者

半利加が出テ来ルデアラウ
 此程迄ナラハ出テ来ラフコトハ
 コトヲ做ニ定メルコトハ困難
 テアラスカト思ヒユム
 〇堤 委員 是ハ半利加

速記擔任者

頁 27

會名

第

號

速記擔任者

其程迄状況著ハ然ラフハドノ
 程迄ニ所クカトニテフコトニ
 ナラズトモナラハ 是ハ相當
 ヲガカクハ 問題デアラフテ 初
 カラ此程迄ニ行ケハ 是

速記擔任者

頁 26

懐ニ相話ソモテ見ラレルフトガ
 必要の外ト思ヒマス
 ンニカラ 梅原大佐ニ
 一書同シヨク一テアリヌエガ
 如西共平洋ニ於テ 君々ナクガ

速記擔任者

カ國ソ賭モテ^ト支那ノ問題
 ニ懸出モテ来ル必要ハ和ハト
 シ老ムテモ大局カラ視テ無ク
 マウニ思ヒマスカラ、是ハ
 高々 概念ニ於テ十分 虚ハ坦

速記擔任者

會名

第 號

速記擔任者

偏記條約カ儘ク時ト大差
 ナキニ範圍ニ於テヤリタリ、多ク
 増加スルカモ知レナク、斯クモ
 一古也、目安ハ今也諸ニ大
 タノテアリマスガ、甚大也ノ

衆議院速記員

會名

第 號

速記擔任者

一ノカヲ持ツタニハ、トレタリ
 ノモノヲ作ルニ、トレタリノ金
 カ要アルカ、目今條約ハナクト云
 一古也、目今條約ハ能ク詳承致ス
 今也、得ニ華条約

衆議院速記員

頁 30

頁 31

33

毛口レダヤト云フコトハ
 予言ハ
 之セヌガ 若干増ス 其
 若干ガ 憐ILLト仰セラルカモ
 知レヌセヌガ 或ハク 憐恐クナク
 若干ヲ作ル 事 積リテア

東洋院速記課

32

日安ニテ 大伴年々トノ位要ル
 カトモフ一ツ 甚 編 廓ダケ
 諸下スツヨシ 如何デアリニセウカ
 永野國籍大臣 實ハ 計 算ガ
 出来テ 居ルニセヌノテ 編 廓

東洋院速記課

II 35

也諸テアリマスガ、假ニ華盛
 頓條約又ハ倫敦條約カ緊
 續ミテ、アツル場合ニ、提カ
 五万三ヶ噸位ノ建艦ガ必要
 テアルト云フモ、説明カテ、統

II 34

リム
 〇小山委員
 一才言閣下
 今海軍大臣ハ
 輪廊ヲ元来ノ程ニ計
 算カ出来テ居ナク、ト云フ

ウト思フガ、トノ位ノ經營ノ要
 ズルノ才アリカス力、ソレカクテ
 之出アモ下スルニ、餘程考
 考ニテ、ウト思ヒムス

永野國務大臣 何モ慮ス

二 昭 皇 ニ セ ラ レ タ 假 ニ 皇 下 三
 午 晚 位 ノ 建 艦 ガ 必 要 ナリ
 上 務 モ 之 ヲ ナ ラ ハ 其 功 合 ン
 ハ 是 ハ 概 然 テ 言 フ 可 ン
 三 午 晚 ト 云 フ ノ 概 然 テ 言

28

三
 年
 五
 月
 十
 一
 日
 軍
 事
 委
 員
 會
 會
 議
 紀
 要
 第
 三
 十
 七
 號
 第
 五
 十
 六
 頁

(1)

Onuma

Item No.	Title	Contents
37	Original shorthand record of the secret Committee Meeting as to estimates of the Army and Navy for 1936. (No. 37-56) Monday, 11 May, 1936.	Questions by several members of the Committee. Answers by Government Officers especially by Navy Minister NAGANO (now dead) and Premier HIROTA KOKI (now on trial), regarding Japanese War Vessels in comparison of British and American navies, and also in respect of Russian military forces and preparation in Siberia and War Minister TERAUCHI

My doc # 1904 - 2

Handwritten text, mostly illegible due to darkness and bleed-through. The number 3306 is clearly visible in the upper middle section.

3306

4107

